

マネージメント情報

※ 新年を迎えるに当たって

新年あけましておめでとうございます。

昨年8月1日に代表取締役という立場になりあっという間に5ヶ月が経過しました。その間に特別何かできたということはありませんでしたがあらためて思うことがありました。

それはトータルハードマネージメントサービスの歴史ということです。現在のトータルハードマネージメントサービスの状況（様々な環境）は長年にわたりお付き合いをしていただいている顧客のみなさんとの関係があり、職員のみんがそれぞれに頑張ってくれた結果であり、弊社と関わる全ての方々のおかげだということを常々考えます。

感謝、感謝、感謝です。

創業者の黒崎尚敏（現社外取締役）がたった一人で総合牛群管理サービスを開業したのが平成6年（1994年）、私が押しかけたのが翌年の平成7年でした。

四半世紀が過ぎ今年の6月で28年目となります。

顧客の農場では代替わりがあっても引き続きお付き合いをさせていただいている農場が10軒以上あります。

現在、トータルハードマネージメントサービスの役職員数は31名、関連会社のトータルハードカーフサービスを含めると38名という大所帯になります。

会社ができから誕生した職員が9名います。

今でも昔のことを時々思い出すことがあります。黒崎と私の二人しかいなかった頃は銀行から百万円単位の融資を受けるにも保証人が必要で顧客の数人の方にお世話になりました。また、黒崎と私が金色のクレジットカードを申請した時がありましたが、二人とも認められませんでした。思い出すとまだまだたくさんあります。

今となっては笑い話のネタが私自身今の立場になり、しばしば考えさせられることはトータルハードマネージメントサービスが社会的に一人前扱いされない時代があり、それをひとつひとつ顧客のみなさんと職員のみんがと一緒に乗り越えることができた経過があって、今のトータルハードマネージメントサービスがあるということです。

特に平成30年（2018年）から始まった体外受精卵部門については、一般的な大動物の開業獣医師（動物病院）では考えられないほどの投資をしました。数年間は技術を安定させるための準備期間と考えていましたが、予定よりも早く対外的な評価をしていただけるようになり昨年1月から体外受精卵の需要が全国的な規模になってきました。

この様な経過を踏まえて、先々月のマネージメント情報で紹介しました様に別会社になりますがOPU室を併設した60頭規模の牛舎をラボの道路向かいに新築することになりました。若干工期が伸びて今年7月末に完成予定です。

このようなことを可能にしてくれたのはこの会社の歴史ですし、長年にわたって支えていただいた顧客のみなさんのおかげ以外の何ものでもないと考えています。

今後も地元の顧客（畜産農家）のみなさんに技術で貢献し共に歩んでいきます。

今年は生産抑制という名の生産調整が行われます。環境が厳しくなればなるほど本当の実力が問われることになりトータルハードマネージメントサービスが顧客のみなさんに対して何ができるのか正念場の一年になります。

各部門の現状と今後について紹介させていただきます。

診療部門ですが、11月のこの欄で報告しましたが4月に阿部紀次獣医師が復帰します。目的は診療技術の底上げです。今一度臨床獣医師の基本に立ち返りたいと思っています。

また、急なお知らせになりますが岩澤獣医師が2月末で退職し、昨年11月に長崎県で新しく立ち上げた酪農を中心とした開業動物病院で新たな獣医師人生が始まります。

さらに新婚の村上（旧姓小方）獣医師が3月末で退職し、ご主人と酪農の新規入植を目指し別海町酪農研修牧場で研修予定です。

二人には新たな人生の門出ということで是非とも夢を成就させて欲しいと思います。

今年は新卒獣医師の採用予定がありませんがこのような状況になります。人数的には1名減という状況になりますが、昨年9月に育児休暇が明けて滝本獣医師が復帰していること、技術的にも人間的にもレベルアップした若手獣医師が多数いますので、みなさまにご迷惑をかけることが無い様に残ったメンバーで何とかこの状況を乗り越えたいと考えています。獣医師の補充はもちろんです。今年中に何とか増員の目処をつけたいと思っています。

授精部門は今年酪農学園大学から女性の新卒授精師の採用が決定していますので、4月からは元の6名体制となります。

基本的に顧客の戸数は変わっていないのですが移植頭数が増加（年度内で8,500頭見込）していて繁殖管理がAI→ETという変化の過渡期になっていると思います。育種改良からスタートしたETが子宮の生産性というETへと目的がマルチになってきています。

現状はオーバーワークになっていますのであと数名の増員は必須の状況で、求人に対する問い合わせもあり増員については現在進行形です。

受精卵部門はOPU-IVFについては西春別の石坂牧場さんの育成牛舎にOPU施設を作っていただき一昨年の10月よりドナー牛の預託という形でOPUを本格的に開始しました。

ドナーの90%以上はホルスタイン種でTHMSの顧客のハイゲノム育成牛を中心に毎週10頭前後のOPUを実施しています。

数頭ですが網走管内と釧路管内からの預託ドナー牛もいます。

先にも書きましたが自前のOPU牛舎の完成に伴いOPU頭数は倍増する予定です。

また、他管内でOPUはそれぞれの地元の獣医師にお願いして吸引した卵子をTHMSのラボまで輸送して培養する形の委託培養も3年前から行っていたのですが、昨年1月末より受精卵専門で開業した十勝の獣医師からの依頼頭数が増えて毎週10頭以上になっていて体外受精卵の認識や評価が良い方向に格段に変化しています。

他にも新規で2軒の開業獣医師がOPUを始めていますし、昨年開業した獣医師や今年開業予定の獣医師からも委託培養の問い合わせがあります。私はこの流れはNOSAIの全道一本

化に伴う「退職→開業の増加」ということが原因で今後も増えていくと考えています。

事務は年が明けて正職員 2 名とパート 1 名が採用されました。

毎年いずれの部門でも仕事量が増えてきていまして、特に移植頭数の増加に伴いクラスター事業の事務処理量が考えられない位膨大になってきています。国の補助事業に関する証明を発行するので間違えることは許されません。また受精卵に関しても証明書を 1 枚 1 枚発行しなければなりません。これら証明書も間違えることは許されませんし、購入した受精卵と一緒に全国の授精所や農場に送付され、手元を離れてしまいますのでとても気を遣うに作業になります。

以上の様にどの部門も仕事の質も量も変化しています。

※ ゲノムの Web セミナー

2 月の中旬に日本政策金融公庫主催でゲノムの Web セミナーを実施の予定です。

講師は奥獣医師が担当します。

ゲノムは今後の酪農経営に必要な知識になります。最寄りの JA から改めて案内があると思いますので興味のある方は是非とも参加していただきたいです。

.....

・毎年新年を迎えると今年こそはと思いながら、年を重ねる度にあっという間に何もできずに一年が過ぎてしまうという繰り返しです。

最近は何事も無く一年が過ぎればそれはそれで十分なのかもしれないと思う様になってきました。これは年のせいでしょうね！

ただ、今年は酪農業界にとって逆風であるということは間違いありませんので、みなさんと知恵を出しながら何とかして一緒に乗り越えるしかありません。

背伸びせずにトータルハードマネジメントサービスができる最善を尽くしたいと思っています。

今年もよろしくお願いいたします。